opusdei.org

人々は私たちの兄弟 (**Ⅱ**)

兄弟的説諭は他者との親しい付き合いの実りであり、神が その人を見つめるように広い 眼差しで見ることになるので す。

2022/04/08

「〔イエスは、〕ヤコブがその子ョセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた」(ヨハネ4,5)。イエスは、その旅とその具体的な時間を注意深く計

画されました。あの井戸において、 ご自身の渇きとサマリアのな性りまで さが出会うことをお望みにいなり かは、増り物にいいとしいる。 は、カールとは、増している。 は、おさいがは、でのは、したとはがいる。 でのでは、は、ではないないがでは、 は、それは、いたとはがいる。 でのでした。 でいることでした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でいることでした。

神の流儀は近づくこと

聖ホセマリアは、「愛徳は〈与えること〉以上に、〈理解すること〉にある」 (1)と教えていました。つまり、他者の問題や困難を自分ののようのはとめるのです。このように行動するよう努力するならの困難はもはや他人事でしたもの困難はもはや他るでしたない。キリストは、時間を惜しんだり、出会うために、時間を惜しんだり、

機会を逃したりはなさらなかったの です。他者を自分のように受け入れ る人は、他者は神のたまものであ り、他者のうちに神の姿を認め、他 者に対するキリストの無限の愛を観 想するのです。近くにいる人は、誰 もがたまものである、と認めること は、相互の助け合いを可能にするた めの第一歩です。イエスはサマリア の女性の人生をたまものとして認め ていたので、彼女に飲ませてくれる ように所望されたのです。イエス は、彼女の愛に渇いておられたので す。

公生活の始めに、自分のためには必要ではなかったのに、イエスは群衆の一人として洗礼を受けることを望みました。教皇様は、ここに主の行動の原点を見ておられます。キリストは単にそこにいるだけではなの出るがは単し寄り添うために、人との出るい日に、イエスは『計画の宣言』とい

えるものを示しておられます。権威 的な決断や力、命令のように高いと ころから救ってくださるのではな く、わたしたちのもとに来て、わた したちの罪を自ら背負うことにより 救っておられます。神は、身を低く し、重荷を背負うことにより、世界 の悪を打ち負かしてくださいます。 これはわたしたちが他者を励ますと きの方法でもあります。裁くので も、すべきことを示すのでもなく、 近づき、共感し、神の愛を分かち合 うのです。近くにおられることは、 神のわたしたちに対するなさりかた です」[2]。

オプス・デイ創立者が言っています。「兄弟的説諭は神の眼差しであり、愛深い御摂理に与ることです」。兄弟を受け入れる人は、他人を裁きません。他人を神の眼差しで見るように努めます。どんな人も宝物のように守ろうとします。「兄弟的説諭は愛情から生まれます。人々の

更なる幸せへの望みの表われです! ^[4]。他者の幸福を求めるという信念 により、他者の自由を最大限に尊重 しながら、他者の人生に深く関わっ ていくことになります。こうして愛 は真実なものになって行きます。兄 弟が聖なる道を歩むのを助けること は、冷ややかな監視ではなく、神の 働きかけを期待しながら、忍耐強く 熱心に寝ずの番をするようなもので す。「監視とは教義や習慣を守るこ とにより心をくだくことであり、見 守るとは、相手の心に塩と光がある ように気遣うことです。寝ずの番と は、迫り来る危険に警戒することで あり、見守るとは、主がご自分の民 の救いを育まれる過程を忍耐強く支 えることなのです| [5]。

大切なのは人々の心

聖ホセマリアはこうも言っています。「兄弟的説諭をすると同時に兄弟の欠点を愛さなければなりませ

ん」[6]。心にかけるとは、小さな傷 を癒すだけでなく、その人を天国に 向かう者として全人格的に見つめ、 時間をかけて愛していくことです。 そして、人間の善い行い、悪い行い の源となる心(マタイ15,19参照)に もっと関心を向けるべきなのです。 なぜなら、一つひとつの行為は、 往々にしてその人の有り方の小さな 表れに過ぎないからです。助けの手 を差し伸べる人は、相手の外見にと らわれず、相手のある一面だけを評 価することなく、相手の抱いている 聖性への熱意に照らして出来事を見 つめます。そこにおいては、霊魂の 最も奥に入るのですから、サンダル を脱がなければならないのです(出 エジプト3,5参照)。兄弟的説諭は、 ある意味で、目まぐるしく変化する 日々の戦いにおいて神がお与えくだ さるたまものを発見できるよう手助 けをする者の姿勢の表れであると言 えます。「もしあなたが神のたまも のを知っているなら | (ヨハネ

4,10)。すべての助けは、このように、それぞれの戦いの中にあるたまものを見い出すためのレンズのようであるべきです。兄弟的説諭におるでは、他者の聖性を優しく見守る者となるべきであって、「義務としてとなるかどうかを見張る者となってはなりません。

例えばイエスは、サマリア女性の人生の個別の問題に立ち歌がかかのでき霊魂がれるでき霊魂がれるです。 痛みの核心にうが近れるです。 すがれました。 ががれまり、とをいるがしたがいます。 ががれたことをしたがいます。 ないたがメシアかも知れません」。 のえばイエスは、ので女へ女に、このがに、このがはないです。 は村へたったです。 ないたしががより、とをいるしたしがいます。 でたんがメシアかも知れません」。 の方がメシアかも知れません」。

イエスは、神の眼差しは全体を包む ものであると教えます。一見取るに 足りないことも、霊的かつ偉大で際 立ったことも、高めてくださるので す。神は、どんなことも人生全体の 部分として、忍耐をもってご覧にな るのです。「個人主義が蔓延する世 界で、わたしたちがともに聖性に向 けて旅するためには、兄弟間で忠告 し合うこと(兄弟的説諭)の重要性 を再発見することが不可欠です。 (…)。ですから、他者を助け、他 者に助けてもらうことは、わたした ちが自らについての真理をすべて受 け入れ、人生をよりよくし、主の道 をさらにまっすぐに歩むための大切 な務めです。神がわたしたち一人ひ とりになさったように、また、なさ り続けているように、愛して忠告 し、知って理解し、見抜いてゆるす まなざしが、いつも必要なのです (ルカ22.61参照) | ^[8]。

その眼差しは、些細なことに目くじらを立てたり、誇大視するのでははない視野を持つ希望にをがいれた眼差しであり、またそれを説が表れたいなのです。兄弟のでは、イエスが表明された望みでするが表明されたに実行して二人だけのと聞きしなって二人だけのでましなる」(マカーは、18,15)。

兄弟的説諭を通して、兄弟が日々な 具体的に生きている聖性へのはます。それの まえることになります。そのはあってはあってはあってはあっているのがで、のです。 もいるでするのがでいるのでででです。 はいるです。 はいるです。 はいるです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいるのです。 はいと言われるのです」 「^[9]。 私たち は、他者の戦いを尊重していること を相手に伝え、他者の感受性を認 め、彼らの戦いを支えます。私たち は他者を助けるのですが、それに よって、私たちも他者に助けられて いることに気付かせることにも す。全ての兄弟的説諭は、兄弟たち を称え、霊魂に働く恩恵を称えるこ とになるのです。

友情の実り

ません。昨今の手術では、患者の体に外科的な負担をかけることなく、機器を使って患者の内部で適切な処置ができるようになってきています。兄弟的説諭を引き受ける者は、心という神聖な場所に、細やかに傷つけることなく入っていくように心がけるのです。

また、説諭を受ける人を良く理解す

ることも不可欠です。私たちは各々 の気質によって、随分異なっていま す。聖ホセマリアはその相違を、オ プス・デイや教会において認められ る | 分子、つまり人々の多様性 | [10] の中心にある事柄であると考えてい ました。兄弟的説諭を受ける時に 様々な反応があり得ますが、その多 様性を、説諭を受ける人の謙虚さや 感受性の問題としてのみの捉えるの は正しくありません。どんなに細や かな言葉を用いて説諭をしても、と がめられていると受け取める人もい るのです。そのような人たちに対す

る時、イエスは、時にはその人を褒 めて優しく真実をお示しになりまし た。例えば、ファリサイ派のシモン の家で、御足に香油を塗ったあの女 性にそのように接しました(ルカ 7,36-50参照)。その一方、曖昧な言 葉を使うと、冷たくされていると受 けとめる人がおり、明確に伝えるこ とが必要な時もあります。マルタは 自分の仕事をより良いものにするた めに、イエスから二度も名前を呼ば れることが必要でした(ヨハネ 10,38-42参照)。トマスは、先生の ために生命を捧げる忠実な使徒して 立ち返るために、主が物理的に近く に来てくださることを必要としまし た(ヨハネ20.26-29参照)。善き盗 賊への説諭は、予期しない贈り物と して与えられました。その日の午 後、イエスと一緒に天国へ入ったの です(ルカ23,39~43参照)。あのサ マリアの女性には、イエスと二人き りになること、静かな場所で落ち着 いて語り合う時間が必要でした。福

音書に登場する人物には同じ人、同 じ反応をする人はいないのです。私 たちの周りの人達にも言えることで す。

「私たちに良くないことがあるとき には、この祝すべき兄弟的説諭で助 けてくれます。兄弟的説諭を実行す るのは時に困難を伴うので、きわめ て超自然的な愛情と力が要求されま す。率直に良くないことを指摘し、 その理由を教えてくれます。逆にあ なたのいないところでは、あなたを ほめちぎり、素晴らしい人だと言っ てくれるのです。子供たちよ、なん と麗しいことではありませんか。率 直にと言いましたが、人間的な率直 さのことです。私たちは嘘をつきま せんから、人が持っていない素晴ら しさを、その人が持っているかのよ うに話すことはしませんが、その人 のいないところで批判することには 我慢できません。そして、不愉快な

ことであっても、正すべきことは愛情を込めて話します」^[11]。

* * *

聖ホセマリアは、種々の形で実際に 経験したことから信念を持って強調 していました。「確信してくださ い。兄弟的説諭をする時、あなたは 兄弟がイエス・キリストと共に主の 十字架を担うよう助けているので す。それはまったく超自然的な助け です。というのも、一つの説諭に は、あなたの祈りが先立ち、あなた の祈りが伴い、あなたの祈りが続く からです」^[12]。ガリラヤのカナで、 マリアはブドウ酒が無くなったこと を察知します。それは新郎新婦の喜 びを損なう危険がありました。善き 観察者として母らしい「説諭」を実 行に移します。解決策を考え、イエ スに話し、給仕たちに頼みます。こ のように兄弟を助けるなら、彼らに とって最良のぶどう酒をキリストか ら得ることができるでしょう。その ために、彼らのことをイエスに委 ね、彼らについてイエスと語り合い ましょう。彼らを救う使命を成し遂 げた方こそ、彼らを最も愛している のですから。

Diego Zalbidea

- [1] 聖ホセマリア、『道』463番。
- [2] フランシスコ教皇、2021年1月10 日お告げの祈り。
- ^[3] ハビエル・エチェバリア、『福者 ホセマリアの思い出』。
- [4] フェルナンド・オカリス、司牧書 簡、2019年11月1日、16番。
- [5] フランシスコ(ベルゴリオ枢機 卿)、2001年10月2日、第10回シノ ドス通常総会。
- ^[6] 聖ホセマリア、1972年10月18日、 家族の集まりでのメモ。

- [7] フェルナンド・オカリス、司牧書 簡、2020年10月28日、6番。
- ^[8] ベネディクト16世、2012年四旬節 メッセージ、1番。
- ^[9] 聖ヨハネ・クリゾストモ、「マタ イ福音についての説教」60番の1。
- 「10] オプス・デイには皆のための場所があります。「共通分母」は聖性を追求することだとしても、「各自の性格や気質によって分子は非常に多様である。それは、イエスが各人の霊魂を導く道の多様性に言えることである」(内的覚書、511番)。
- [11] 聖ホセマリア、1970年5月21日家 族の集まりでのメモ。
- 「12] ハビエル・エチェバリア、『福者 ホセマリア・エスクリバーの思い 出』128ページ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ Hitobito-ha-Watashitachi-no-Kyoudai-ii/ (2025/12/11)